

■竹久夢二 画家、詩人。「美人画」で一躍有名になり、写真・印刷を初めて活用して商業デザインを先駆するも、挫折。

たけひさゆめじ

秩父事件・・・1884＝ 岡山県邑久町で、代々造り酒屋竹久家の次男に生まれる。茂次郎。前年に兄が夭折して事実上長男。

帝国憲法発布1889＝ 5歳：

郡司千島探検1893＝ 9歳：

日清戦争始・・・1894＝10歳：

Bushidou・・・1899＝15歳：神戸中学校に入学、叔父の家に下宿したが、途中退学して実家に戻る。

ビア国産化・・・1900＝16歳：父が家業を止め、一家は福岡県の八幡村に移住。八幡製鉄所の製図工として働く。

田中正造直訴1901＝17歳：絵や文学が好きで、家出して上京。

教科書疑獄・・・1902＝18歳：早稲田実業学校に入学するが、授業に出ず、平民社に参加したり、白馬会の洋画研究所に通ったりする。

日露戦争終・・・1905＝21歳：雑司ヶ谷の農家を借り、荒畑寒村らと自炊の共同生活をする。\*盛んに投稿し、平民社の機関誌{直言}にコマ絵が載る。{中学世界}増刊号に夢二のペンネームで投稿したコマ絵が当選。これを契機に早稲田実業学校中退してコマ絵に専念。次々に当選して、新聞、雑誌の注文を受けるようになり、まさにアイドルに。

韓国反日暴動1907＝23歳：絵はがき屋を始めた岸たまきと恋に落ち、結婚。読売新聞に入社。

アヲキ創刊・・・1908＝24歳：長男が誕生するも、

伊藤博文暗殺1909＝25歳：離婚。\*最初の画集「春の巻」を刊行、ベストセラーとなり、一躍作家として確立。以後、次々画集を出す。

韓国併合・・・1910＝26歳：たまきと再び同棲。大逆事件関与容疑で拘留後、引越しを繰り返す。房総旅行中、「宵待草」構想。

大逆事件判決1911＝27歳：次男が誕生後、再別居。\_「月刊夢二エハガキ」刊行。封筒、千代紙、浴衣などデザイン。

明治天皇没・・・1912＝28歳：\_「宵待草」の原詩を発表。

大正政変・・・1913＝29歳：海外旅行を意図し支援も受けるが、大戦が始まり中止。\_画集「どんたく」出版、その中で「宵待草」決定版。

第一次大戦始1914＝30歳：\_東京呉服橋に{港屋絵草紙店}を開く。

21ヶ条要求・・・1915＝31歳：女子美の生徒笠井彦乃と結ばれる。\_創刊された{新少女}(婦人之友社)の絵画主任となる。

民本主義・・・1916＝32歳：三男が誕生。{港屋}を整理。京都に移る。\_楽譜「お江戸日本橋」の表紙画皮切りに、以後多数作画。

ロシア革命・・・1917＝33歳：彦乃と北陸旅行。宮内省雅楽部の多忠亮が「宵待草」に作曲し発表し、

本格政党内閣1918＝34歳：彦乃が病に倒れ関係が終わる。東京に戻る。\*楽譜「宵待草」が出版され大ヒット。

ベルリン条約・・・1919＝35歳：彦乃への思い出「山へよする」を刊行。モデルのお葉と知り合う。

大暴落・・・1920＝36歳：彦乃が病死。「長崎十二景」「女十題」。

原敬首相暗殺1921＝37歳：お葉と暮らす。

関東大震災・・・1923＝39歳：\*大震災により、計画していた{どんたく図案社}が挫折。震災後のスケッチ「東京災難画信」寄稿連載。

護憲三派圧勝1924＝40歳：一度家出したお葉が戻り、自ら設計したアトリエ付き住宅に住む。

治安維持法・・・1925＝41歳：女流作家山田順子の装丁をして翻弄され、お葉も去る。

金融恐慌・・・1927＝43歳：生活を立て直そうと、都新聞に自伝小説「出帆」を連載。

共産党事件・・・1928＝44歳：母死去。この頃、吉井勇、直木三十五ら様々な人と、ひたすら旅を繰り返す。

世界恐慌・・・1929＝45歳：

海軍軍縮条約1930＝46歳：\_どんたく社同人と「雛によする展覧会」を開催。創作人形芸術の新たな一歩となった。

満州事変・・・1931＝47歳：父が死去。\_洋行の費用工面のためいくつか展覧会を開く。支援を受けた榛名山の研究所建設計画も中断。横浜から出発。サンフランシスコで個展を開いたが、絵は売れず、苦しい旅となる。

五一五事件・・・1932＝48歳：アメリカからヨーロッパに渡る。

国際連盟脱退1933＝49歳：\_帰国するが、結核を患い、

帝人疑獄事件1934＝50歳：\_入院の後、没した。

アカデミズムからは戦後ようやく評価されるようになったが、日本のデザイン史で、名を欠かせない山名文夫は、膨大な数の人物を登場させ、巻末には、日本のデザイン界の略年表もつけている「体験的デザイン史」のなかで、'叙情画というものがあるとすれば、夢二をおいてほかにない。強いていえば、歌麿、春信にまで遡る'、'夢二にはもう一つ際立った面がある。一連の楽譜の表紙や装丁のデザインに見られるエキゾチックな新しい感覚の仕事である'といい、まさにデザイナーの先駆者であった。